

守り伝える、宇久島の伝統

四百年の伝統 宇久神楽

五島に伝わる伝統「神楽」

宇久島を含む五島列島の島々では、400年ほど前から神事で奉納される舞「神楽」が受け継がれ、「五島神楽」として島の人たちに親しまれてきました。五島列島の神楽は宇久、上五島、有川、福江、富江、玉之浦、岐宿の全7種。かつての宇久島は藩が2つに分かれていたことから神楽も2系統あり、神浦地区の宇久島神社には富江藩系の宇久島流が、平地区の神島神社には五島藩系の神島流がそれぞれ伝承されてきました。



宇久島神社司宮 月川 徹さん

「昔は祭りの日になると、何番もの神楽が奉納されて、境内には朝から夕方ごろまで太鼓や笛の音が鳴り響きました。地方に芸能がなかった時代でしたから、神楽を見て、地域の人がお宮に大勢集まってにぎわっていました。」

「昔は祭りの日になると、何番もの神楽が奉納されて、境内には朝から夕方ごろまで太鼓や笛の音が鳴り響きました。地方に芸能がなかった時代でしたから、神楽を見て、地域の人がお宮に大勢集まってにぎわっていました。」

「指定には宇久の神楽も欠かせない」と宇久島でも復活の音が上がり、宇久島神社、神島神社の関係者、有志の皆さんによって平成26年に宇久神楽保存会(会長・月川さん)が結成



五島列島の最北端にある宇久島。五島文化発祥の地ともいわれ、魅力的な伝統芸能や文化が長い歴史の中で伝承されています。今回の特集では、宇久島に古くから伝わる五島神楽や7月に開催された電神祭の様子などを紹介します。

されました。「いつか舞うかもしれない」と獅子舞などの道具は大切に保管して置きました。復活させるという話が出たときは、やらんはいかんと思いましたが」と月川さん

神島流の「荒平舞」。天狗が榊、盆などで荒々しく舞うのが特徴です



1



2



3



4

神島神社で行われている神楽の練習の様子

- 1 笛の稽古を行う平田明日香さん(写真奥)と愛夏さん(手前)
- 2 太鼓のたたき方を指導する平田次博さん
- 3 4 笛と太鼓の音が響く神島神社。音に誘われ、当時は懐かしむ地域の人などが神社に集まります

未来に伝える伝統芸能 神楽の世界

国重要無形民俗文化財に指定されたことを記念し、五島神楽に加え、平戸藩に伝わる平戸神楽が一堂に集まり、させば文化マンスの中で舞を披露します。

11月26日 13時 亀山八幡宮(八幡町)

「両神社では地域の子どもたちや有志の皆さんが練習を重ね、翌年には神島神社で約10年ぶり、宇久島神社で約40年ぶりに神楽が奉納されることとなりました。関係者をはじめ、島の人たちが喜んだ宇久神楽の復活でした。宇久神楽の復活により7種全ての神楽がそろった五島神楽は、ことし3月、念願だった国の重要無形民俗文化財に認定されました。本市から国指定の重要無形民俗文化財が誕生するのは初めてのことです。」

次世代へ引き継ぐ 神楽の伝統

宇久島神社の神楽を舞うのは地域の小学生を中心とした子どもたち。「子どもが参加すると、親が来て、祖父母も来ます。そうやって地域の人たちに神楽という文化財を広めていきたいです。宇久は小中高一貫教育で先生たちも地域の行事に熱心に参加してくれま。学校や地域のみんなで伝統を守っていければ嬉しい」と月川さんは話します。

神島神社では保存会の幹事長の平田次博さんを中心に次女の明日香さん、三女の愛夏さん、地元の有志の皆さんが稽古を重ねています。平田さんは「自分も小さいころは親から習って練習していました。神楽をすきよことになったとき、娘も自分からやりたいと言ってくれたんです」と笑顔で話します。自ら巫女舞を奉納するという愛香さんも「これからも続けていきたい」とのこと。保存会では神楽の伝統を途絶えさせないよう、次世代へ引き継ぐための取り組みをこれからも進めていきます。(取材日 7月21日、27日)

三百年前から伝わる夏の夜祭

竜神祭 ヒヨヒヨ祭

宇久島には古くから伝わる行事が数多くあります。特に夏に開催される行事には、帰省した人たちがも参加し、島がたくさんの人たちでにぎわいます。

その一つである竜神祭は、神浦地区いづれの厳島神社に300年以上前から伝わる夏祭です。満月の海上を舞台に、ごとしも旧暦の6月17日となる7月20日に開催されました。

大漁旗がたなびき、屋台や見物人でにぎわう大潮の神浦漁港。太陽が沈むと、地元の中学生や神社の関係者が高張提灯を掲げ、神輿をかついで町内を練り歩きます。

神輿が町内を一周すると、祭りの見せ場である海上渡御いづれの始まりです。3隻の漁船がのぼりや提灯で飾り付けられ、神輿・笛・太鼓、供え物を載せて出港します。船には子どもたちも大勢乗り込み、祭りを盛り上げます。「ヒヨヒヨヒヨヒヨ」という掛け声、笛や太鼓の音が港に響く中、船は港内をゆつくりと右に3周。その後は沖へ向かい、海上で大漁と漁の安全を願う神事を執り行います。竜神祭はこの掛け声にちなんで「ヒヨヒヨ祭」とも呼ばれています。

かつての神浦港は上五島随一の漁港として知られ、漁船や商い船、全国各地から集まった商人や漁師たちでにぎわっていました。漁の近代化など時代の流れとともにその姿は変わりましたが、島の子どもたちも見物人でにぎわう竜神祭の日には、漁港として栄えた神浦港の歴史に思いを馳せることができます。

竜神祭の由来

竜神祭の由来について、詳しく書かれている文献はありませんが、神浦地区にはこんな伝説があります。

ある年の6月17日(旧暦)の夜、笛の名手だった庄屋が五島領主に年貢を納めに行った。帰りの船で屋形の上のぼり、得意の笛を船乗りたちに聞かせていると、笛の音がだんだん遠くなり、最後には消えてしまった。屋形の上を見ると庄屋の姿も消えていた。その晩庄屋の霊が現れ「竜宮城に連れて行かれてしまった。月夜の晩に笛の音を聞かせるから、聞こえをうちはわたくしが生きていると思ってくれ」と言った。

「ヒヨヒヨヒヨヒヨ」の掛け声は、そのような庄屋を偲ぶものだと言い伝えられています。

(取材日 7月20日)

- 1 次第に薄暗くなる中、神輿が町内を周る
- 2 大漁旗がたなびく祭り当日の神浦漁港
- 3 かき氷や金魚すくい、屋台が並び、多くの人でにぎわう港周辺
- 4 船に乗り込み、出港を待つ子どもたち
- 5 提灯が飾られ、神輿や供え物などが載せられた漁船
- 6 島の人たちに見守られながら沖に向かう船

宇久島イベント情報

神島神社例大祭(おくんち)

平地区の神島神社では、大漁満足と五穀豊穣に感謝する例大祭が行われます。これまでの地区輪番制に変わり、ことしから実行委員会を発足して山車や奉納踊りなどで祭りを盛り上げます。

時 10月15日(土)、16日(日)
場 神島神社(宇久町平)

宇久島神社例大祭(しゃぐま棒引き)



神浦地区の宇久島神社例大祭は「しゃぐま棒引き」といわれる毛槍を互いに投げ渡しなが練り歩くとお祭りで、市の無形文化財にも指定されています。

時 10月22日(土)、23日(日)
場 宇久島神社(宇久町神浦)



若手畜産農家が奮闘中



(上)左から西尾光隆さんとJA宇久支店の入山千敏さん(下)えさやりの後には一頭一頭必ず顔をなでるなど、愛情を持って育てているという西尾さん。子牛から育てた牛は特に懐いているそうです

畜産業が盛んな宇久島には現在102戸の和牛の繁殖農家があります。全国的に後継者不足といわれる中、宇久島では少しずつ島に戻る若者が増えています。ことしからは若手メンバーで「あんどこんど」を使った月1回の勉強会もスタート。獣医師から畜産について講義を受け、宇久島の畜産農家全体の技術向上を目指します。島に戻って7年目の西尾光隆さんは若手のリーダー的存在。「7年前は1人しか若手がいませんでしたが、今では20~30代の若者7人が島に戻って頑張っています。同世代がいると、何かあったときお互いに相談できたり、頼れたりするのがいいですね。今の倍くらい若手が増えれば嬉しいです。きつい仕事ですが頑張りがあります」と話してくれました。

特集についての問い合わせ
秘書課 ☎24-1111

グリーンアスパラ

宇久の特産品として知られるアスパラ。2月下旬~10月中旬にかけて収穫され、市内を中心に出荷されています



水産加工所「宇久島屋」

宇久近海で採れた新鮮な魚介類を一つ一つ手作りで加工。ふるさと納税の返礼品としても人気で、ターミナル内の売店でも販売しています



島の人が気軽に立ち寄れる場所に コミュニティスペースをオープン



(上)左から地域おこし協力隊の森陽香さん、齋木章太さん(下)宇久島の活性化イベントを企画し、コミュニティスペースで準備をする島の若手メンバーの皆さん

平港から徒歩5分の場所にあるコミュニティスペース「あんどこんど」。昨年度から宇久島で活動する地域おこし協力隊の森陽香さんと齋木章太さんが「島の人が気軽に集まれる場所を」と、地域の方の協力を得て開設しました。

「室内を飾る観葉植物や置物は近所の人からのプレゼントなんです」と森さん。活動を応援してくれる島の人の思いが詰まった、新たなスポットとなっています。室内には和室、プロジェクターなどを完備し、会議などにも対応。現在は週に約40人の利用があり、少しずつ活用が進んでいます。「今後は島内の色々な地区の人に広めて、気軽に地域の人の声が聴ける場所にしたい。帰省した人や観光で訪れた人にも立ち寄って欲しいですね」と齋木さんは話します。

宇久島 INFORMATION

特集に合わせ、宇久島の新たな取り組みや島で頑張る人たちなどを取材しました。秋にはおくんちなどイベントも盛りだくさんの宇久島。美しい景色と島の人たちに会いに出掛けてみませんか！



宇久で平成25年から始まった民泊。現在は18軒が民泊に登録し、学生の団体を受け入れるなど利用が広がっています

- 観光・宿泊などの問い合わせ
宇久町観光協会 ☎0959-57-3935
- 宇久島へのアクセス
佐世保港から高速船直行便で1時間20分、フェリー直行便で2時間30分
※就航時間や料金など詳しくはお尋ねください。
九州商船 ☎095-822-9153



東光寺

平地区の高台に建つ東光寺は宇久家(後の五島家)の菩提寺として建立され、家盛公以下7代の歴代領主が祀られています



ヒゴタイ

自然豊かな宇久には環境省のレッドリストにも登録されている「ヒゴタイ」が群生しています。現在宇久町観光協会では周辺を整備するなどの保全活動を行っています